



The Japanese Association
of Organic Geochemists

Newsletter

Organic Geochemistry

62

Jan 7, 2016

目次

Report

第 33 回有機地球化学シンポジウム(2015 年札幌シンポジウム)開催される
2015 年度有機地球化学会 研究奨励賞 (田口賞) 受賞者決まる

2

People

星間塵から彗星、そして生命へ ー宇宙を旅する有機物ー

菅原 春菜

5

Invitation

第 34 回有機地球化学シンポジウム 藪田ひかる

8

Information

2015 年度総会議事録／年会費納入のお願い

10

Announcement

有機地球化学賞 (学術賞) 2016 年度受賞候補者推薦の募集
研究奨励賞 (田口賞) 2016 年度受賞候補者の募集
ROG32 巻へ論文を投稿しましょう！！

20

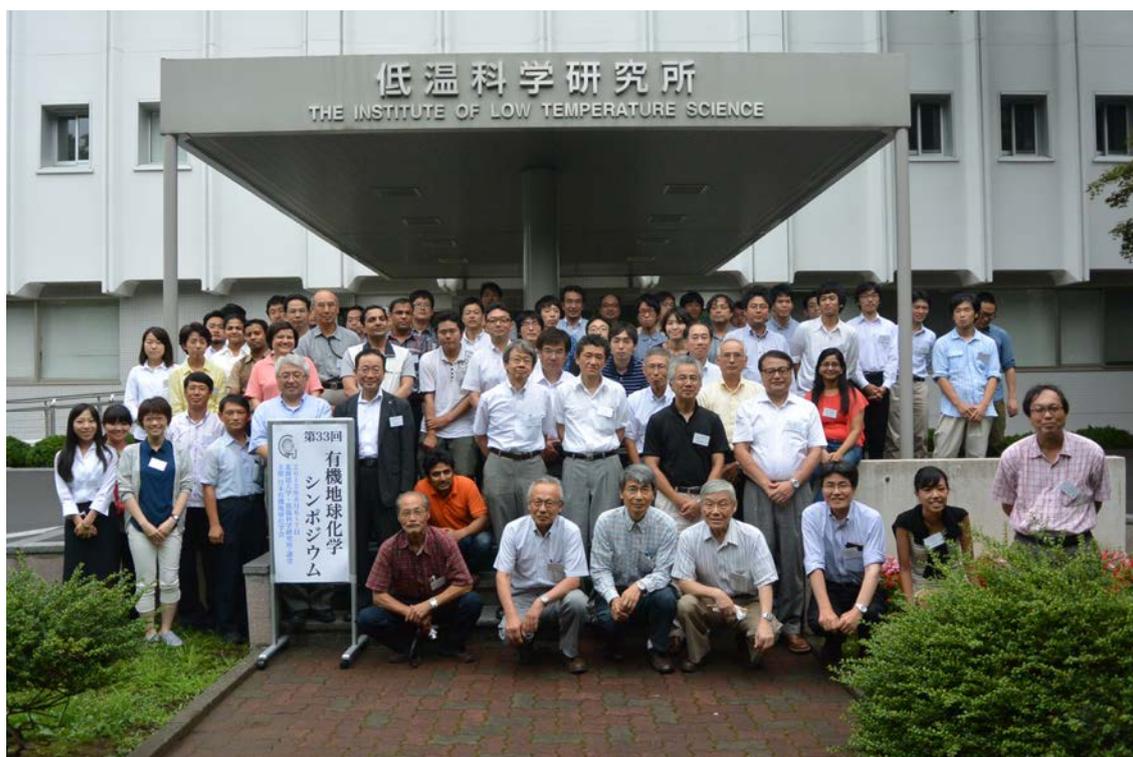
編集後記

22

Report

第33回有機地球化学シンポジウム (2015年札幌シンポジウム) 開催される

第33回日本有機地球化学シンポジウム(2015年札幌シンポジウム)が平成27年8月6~7日に北海道大学低温科学研究所にて開催されました。参加者数は80名以上と数多くの方が参加して下さいました。口頭発表件数は29件、ポスター発表件数は23件でした。参加者の皆さま、ならびにシンポジウムの準備のお手伝いをしてくださった方々に、世話人より心からお礼申し上げます。(河村、関)



平成27年8月6日低温科学研究所前にて



懇親会の風景

ポスター賞の受賞者(左から中根さん、前山さん、Divyavaniさん)と河村会長

2015 年度有機地球化学会 研究奨励賞（田口賞）受賞者決まる

2015年度研究奨励賞（田口賞）は、同賞選考委員会で審議された後、運営委員会において、中村英人会員に授与することが承認されました。2015年度総会後に表彰式が行われ、賞状と副賞5万円が中村会員に贈られました。おめでとうございます。

研究奨励賞（田口賞）第18号

受賞者：中村 英人 会員(北海道大学大学院理学院)

受賞題目：「陸上植物および微細藻類のバイオマーカーによる化学分類、古環境復元の研究」

選考委員会所見

中村英人博士は、北海道大学大学院理学院修士・博士課程において、古代堆積物（堆積岩）中の陸上植物に由来するバイオマーカーおよび堆積岩・植物化石に含まれる難分解性の高分子有機物の研究を精力的に行ってきた。特に、熟成の進んだ堆積岩中の陸上植物テルペノイドを用いた古植生解析法を開発・検討してきた。この研究テーマで、大学院博士課程において DC2 学振特別研究員に採用された。中村さんの研究は、花粉や植物遺体といった化石がほとんど含まれない地質学試料から、有機地球化学分析によって高精度で定量性の高い古植生変動を求めるところに有用性と独創性がある。ただし、国際的には、高等植物バイオマーカーを石炭層や泥炭層に応用して堆積した植物の起源を評価する研究は1980年代頃から行われてきた。その方法を、石炭層などに限らず、白亜紀などの地質時代の沿岸～沖合（深海）の海成堆積層に汎用し、体系的に古植生変動を復元できるように指標の精度を上げたことと、これまでランダムに列挙されていた陸上植物バイオマーカー指標を整

理して国際的に示したことが高く評価される。また、技術的に、GC/MS の連続選択イオンモニター(SIM) 測定を 1 試料に対して数回繰り返して行う分析法の検討により、陸源有機物が極微量にしか含まれない古代の深海堆積物などに対しても応用できるようになったことが評価された。特に、中村さんが提案した芳香族テルペノイド古植生指標（ar-AGI）は、熟成の進んだ白亜紀堆積物の研究において効果的である。中村さんは、北海道の白亜系堆積物に応用し、被子植物が出現して世界中に被子植物植生が拡大していく白亜紀初期～中期の古植生解析を実現したこと、さらに日本・東アジア域の最古の初期被子植物植生の拡大過程を復元したことは、古環境・古気候変動、陸上生態系史の研究においてインパクトの高い成果であり、大いに評価される。この ar-AGI 指標は、現在、おもに白亜紀から新第三紀の古植生変動とそれに関連した古気候・古環境変動の復元のために広く使われつつあり、Organic Geochemistry に 2010 年に公表した論文は引用回数も比較的高い（引用回数 19）。また、石炭を形成する植物種の推定や石炭形成環境の復元にもテルペノイド指標の応用が進んでいて、燃料資源地質学研究にも十分活かされる技術であると考えられる。さらに深海掘削試料への応用も試みていて、陸域から深海への陸源物質の供給過程といった物質循環の研究も進めている。

中村英人博士は、博士学位取得後の 2011 年から JST の戦略的創造推進研究事業 (CREST) 「藻類バイオエネルギー創成の基盤技術の創生」プロジェクトの博士研究員として、微細藻類の脂質バイオマーカーを用いたバイオ燃料創成技術の開発・検討の研究に携わっている。具体的には、ハプト藻が合成する脂質であるアルケノンおよびアルケンをバイオ燃料

に応用することを目的とした分析を行い、多量のオイルを産生する藻種の特異性と生産条件を検討している。この研究は一方で、有機地球化学・古海洋学でよく知られるアルケノンにおいて未だにわかっていない細胞内の合成系・植物生理学的機能や、不飽和比の温度相関性の生理学的な仕組みを解明しようとする目的があり、かつ、未知のアルケノン合成藻類の探索・解明をも目指している。中村さんは特に未知のアルケノン合成藻類の探索の研究において、多くの成果をあげている。アルケノンを合成する藻種はおもに海生のハプト藻（円石藻）が知られるが、近年の研究で大内陸湖・塩湖で生息する円石を形成しない未知のハプト藻もアルケノンを合成し、内陸湖沼環境に広く分布することがわかってきた。中村さんの研究では、現在単離されている円石を持たないハプト藻株コレクションを世界中から集め、それらの培養試料のアルケノン、アルケン、ゲノム解析を行って、中国や南極などの湖沼堆積物で見出されるアルケノンとの関連性を体系的に調べることから、内陸湖沼のアルケノン合成ハプト藻の同定・解明を目指している。また、*Organic Geochemistry* に 2014 に公表した論文では、内陸湖沼に生息するハプト藻と関連性の高い *Ruttnera lamellosa* の体系的な生育水温-アルケノン不飽和比関係式を得て、これが内陸湖沼堆積物からより高精度の古水温変動、さらに古気候変動を復元するために有用であることを示した。中村さんは、この研究を通して、生物科学の研究

者との分野横断的な研究を経験しており、新しい技術や研究領域の開拓への意欲が増していると感じられる。

加えて、中村英人博士は、2009 年に行われた統合深海掘削計画 (IODP) の赤道太平洋年代トランセクト掘削 (PEAT) に乗船研究者 (Sedimentologist) として参加し、掘削科学に関連した堆積学・地球化学調査にも携わっている。中村さんは当時、博士課程 2 年生で参加したが、深海底から掘削される堆積物コアの岩石記載を精力的に行い、現場での堆積学者としての一連の作業を経験している。それらのコア試料を用いて、前述した陸上植物テルペノイドバイオマーカー分析から、古第三紀から新第三紀を通じた赤道太平洋への陸源物質輸送の量・質的変動を復元する研究を行っている。加えて、研究航海中には欧米の研究者との英語でのコミュニケーションを積極的にを行い、国際共同研究プロジェクトを主役で推進する高い潜在力を持ち合わせていると思われる。陸上植物の古植生解析と微細藻類のバイオ燃料・化学分類研究に関わる有機地球化学・生物地球化学の技術と知識を習得し、かつこれからの研究の方向性をきちんと捉えている研究者として期待できる。

このように、中村英人博士は研究者としての資質が高く、将来の日本さらには世界の有機地球化学を推進できる研究者となると信じています。今後の活躍を期待しております。

(研究奨励賞 (田口賞) 選考委員会)

People

今回の People は、海洋研究開発機構の菅原春菜さん（ポスドク研究員）にご寄稿いただきました。

星間塵から彗星、そして生命へ -宇宙を旅する有機物-

国立研究開発法人海洋研究開発機構 生物地球化学研究分野

菅原 春菜（ポスドクトラル研究員）

皆さん、初めまして。菅原春菜と申します。2014年3月に名古屋大学の三村耕一先生のもとで学位を取得した後、現在は海洋研究開発機構の高野淑識主任研究員のもとで研究を行なっております。今回、現・所属研究室の先輩でもある金子雅紀さん（現・産業技術総合研究所）から本記事の執筆の機会を頂きましたこととお礼申し上げます。本記事では、私のこれまでの研究やその研究を始めるに至るまでの経緯についてご紹介させて頂きたいと思います。

私が有機宇宙化学研究の道を志すきっかけとなった出来事は小学生の頃に遡ります。本や百科事典を読むのが大好きだった低学年の頃、小学校の図書室の閉室間近に、とにかく何でもいいからと思って手にとった本が宇宙人についての“真面目な”本でした。その本をきっかけに地球外生命に強い興味を抱くようになりました。宇宙や星が大好きだった私は、よく父と共に山に登って星や流れ星を眺めていたのですが、物心がついてくると、夜空を見上げる度に、あの星々には自分たちのような生命が住んでいるのだろうか？そもそも生命はどうやって生まれたのだろうか？と疑問に持つようになりました。ちょうどその頃、百武彗星とヘール・ボップ彗星という大彗星が夜空を彩っておりました。

そして中学生の終わり頃、よく読んでいた天文雑誌の記事の中で「アストロバイオロジー」という言葉に出会い、高校生の頃に科学雑誌ニュートンの中で見つけた記事が「隕石

に含まれるアミノ酸」についての記事でした。その記事には隕石が運んだアミノ酸が生命誕生のきっかけとなったとか、隕石のアミノ酸は地球の生命と同じL体に偏っているといった話を書いてあったと思います。（余談ですが、この記事はおそらく2000年頃のS. Pizzarelloさんたちの隕石アミノ酸の光学活性に関する論文がベースになっていて、学会でPizzarelloさんにお会いしたときにはとても感動したのを覚えています。）そして、進学する大学を決める頃に、三村先生のホームページに載っていたベンゼンの衝撃化学反応の図を見て、隕石衝突とアミノ酸がつながり、名古屋大学への進学を決めました。

大学生になってからは、好奇心旺盛な私は惑星物理学や天文学系の研究室に出入りしたり、イギリスに1年間交換留学してみたりして、どんどん興味の幅が広がっていきました。そして、学部4年生の頃に学士論文として取り組んだテーマは、その頃とても傾倒していた太古代の生命に関するもので、名古屋大学の杉谷健一郎先生のもとで、西オーストラリア、ピルバラクラトンの34億年前の黒色チャートに含まれる多様な微化石群の生息環境に関する研究を行いました。この研究では、黒色チャートの無機化学分析がメインになりましたが、三村先生のもとで黒色チャートに含まれる有機分子やケロジェンの有機化学分析法も学びました。

そして、修士課程に進む時、新しい研究を始めようと決意し、三村先生にアミノ酸と隕

石衝突の研究がやりたいと告白したところ、快く受け入れてもらえました。しかし、研究室では炭化水素やケロジェンの分析を主として行っており、アミノ酸のような極性化合物は扱っていなかったため、アミノ酸やペプチドの分析法の開発は、予想外の失敗の連続で、修士課程のほとんどの時間をこの開発に費やしました。この期間はなかなかデータが出ず、忍耐の日々でしたが、今思い返すと有機化学分析の基礎を身体で学んだとても実り多い日々だったなと思います。

博士課程では、修士課程で確立したアミノ酸・ペプチド分析法をもとに念願の衝撃実験に取り組みました。この実験の目的は、彗星や隕石に含まれるアミノ酸が、地球に衝突する際に生じる衝撃波によって、どの程度分解されずに初期地球に供給されたのか？また、衝撃波により生じる化学反応を明らかにすることです。この目的のため、彗星や隕石を模擬した物質にアミノ酸を混合した試料を作成し、衝撃銃（写真1）を使って、衝撃波を作用させる実験を行いました。衝撃銃は大きな火薬銃で、一回ごとに銃身の掃除が必要で、一日中実験をした後には、なぜかいつのまにか顔が真っ黒になっていて、よく周りに心配されていました。これらの一連の実験により衝撃化学反応の特異性ととも、衝撃波によりアミノ酸が重合して3量体までのペプチドを生成することがわかりました。この成果については、論文が受理されるのに長い時間がかかりましたが、2015年に日本地球化学会から *Geochemical Journal Award* を授与して頂き、苦勞が報われる思いがしました。

学生の頃は太古代の生命の痕跡から、彗星や隕石の有機物へと有機物の進化の歴史を遡るようにして研究して参りましたが、現在はさらに遡って、太陽系が出来る前の原始太陽系星雲や星間分子雲における有機物の分子進化の解明に取り組んでいます。特に、同研究



写真1. 衝撃実験に使う一段式火薬銃と筆者。

室所属の高野淑識さん、大河内直彦さん、小川奈々子さん、力石嘉人さんとともに星間環境における窒素含有化合物の分子進化と窒素同位体分別との関連に着目して研究を行っています。素晴らしい同僚（写真2）、素晴らしい分析技術と分析機器、目の前が海！の素晴らしい環境に恵まれ、とても楽しく刺激的な研究生生活を過ごしています。

この記事を書きかけにこれまでの半生を振り返ってみました。不思議なご縁に導かれて、要所要所で素晴らしい人たちに恵まれて、今こうして楽しい研究生生活を送れていることに気づかされます。これまで様々な形で関わって下さり、ご支援下さったすべての人、そしてこれから出会うであろうすべての人に感謝申し上げたいと思います。これからも宇宙を旅する有機物が生命に至るまで、その旅路の解明に邁進していきたいと思っています。



写真 2. 現在の研究室のメンバー（ゲストも含む）。後列左から 5 番目が筆者、その右隣が大河内さん。
後列右端が高野さん、後列左から 2 番目が小川さん、前列左から 3 番目が力石さん。

Invitation

今回の第 34 回有機地球化学シンポジウムは、本会初の国際研究集会として開催いたします。

国際有機地球化学ワークショップ「Biomarkers and Molecular Isotopes」 日程：2016 年

7月4日（月）～7月5日（火） 場所：箕面観光ホテル（大阪府箕面市）

※7月3日に運営委員会、4-5日にワークショップを開催。4日夕方に総会を予定しています。

今年6月26日～7月1日に地球化学分野では最大の国際会議である Goldschmidt 国際会議が横浜で開催されることに伴い、本会も例年の年会から趣向を変えて、Goldschmidt 国際会議のポストワークショップとして有機地球化学の国際研究集会を開催し Goldschmidt 参加者を中心とした国内外の有機地球化学研究者間の交流の場を設ける考えに至りました。Goldschmidt が多数の企画セッションから構成される約 3000 人規模の会議であるのに対し、本ワークショップは有機地球化学におけるさまざまなトピックを専門とする約 50～100 人程度の研究者が一同に会して 2 日間の合宿形式で最先端の研究成果を発表し、宇宙-地球-生命システムにおける有機物の役割について分野横断的な議論を深めることが目的です。このような比較的少人数での研究集会では学生や若手研究者が英語で成果発表を行う機会を多く提供しやすいという利点を含むため、次世代のステップアップ支援としての意義が高いものです。またわが国での有機地球化学のアクティビティの高さを世界に発信する貴重な機会にもなり、本会の国際化、将来の中～大型プロジェクトを展望したコミュニティ力の強化を図るきっかけづくりを目指します。

箕面観光ホテルは、明治の森箕面国定公園に隣接し、いわゆる“大阪”のイメージとはかけ離れた、滝と紅葉で有名な納涼スポットです。開催時期は夏ですので新緑に囲まれた溪谷ハイキングをお楽しみいただけたらと思います。さらに、この地域は炭酸水素塩泉の天然温泉が湧くことでも有名で、ホテル最上階の露天風呂「天空の湯」では標高 180 メートルから夜景を眺めながら美肌効果を満喫していただけます。大阪伊丹空港や JR 新大阪駅か

らのアクセスも良好です。夜の THE・大阪を味わいたい方々には、阪急電車で 30-40 分の梅田やなんばに繰り出すこともおすすめです。また箕面は日本列島誕生の記録を残す、地球科学的にも興味深い地域であり、古生代ペルム紀～中生代ジュラ紀（約 2.8 億年前～1 億年前）に形成された地質帯（丹波層群）を溪谷沿いに観察することができるということで、大阪大学の学部生の野外実習の一環としても活用されています。

横浜でのエネルギッシュな Goldschmidt 国際会議を堪能したあとは、そこで出会った海外のお友達をお誘いあわせのうえ、ぜひ大阪へ。アットホームな時間空間の中で、より多くの皆様が、有機地球化学から生まれる国境を越えた友好関係を醸成する機会となることを心より願っております。なお、今回の研究集会については世話人だけでなく、新会長・副会長・事務局長はじめ多数の会員の方々のご助言・ご協力を得て開催準備を進めさせていただいております。皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

（世話人：藪田ひかる、山中寿朗、池原実、力石嘉人、朝比奈健太）



大阪・箕面公園の秋（注：開催時期は夏です）



「2015 年度総会」議事録

1. 日時：2015 年 8 月 5 日（水）16:15～18:15
2. 場所：北海道大学 低温科学研究所 講堂
3. 議長選出：北海道大学 山下洋平 会員を議長に選出した。
4. 議事内容 1：事業全般
 - 4.1. 2014 年度実施事業・会計・監査報告

以下の報告が事務局および金子監事からあり、出席者の賛成多数により承認された。

 - 4.1.1. 2014 年度事業報告
 - (1)Publication 関係
 - ・ ニュースレターNo.58（2014.1.7）、No.59（2014.8.13）発行
 - ・ ROG Vol.30 No.1（2014.12.30）発行：41 ページ
 - (2)Meeting 関係
 - ・ 学術賞受賞候補者選考委員会（2014.6; email にて）
 - ・ 田口賞受賞候補者選考委員会（2014.7; email にて）
 - ・ 運営委員会（2014.11.5; ニューウェルシティ湯河原、email にて随時）
 - ・ 第 32 回有機地球化学シンポジウム（2014.11.6～7; ニューウェルシティ湯河原）
 - ・ 総会（2014.11.6; ニューウェルシティ湯河原）
 - ・ ROG 編集委員会
 - ・ 記念出版物編集委員会
 - ・ 将来計画委員会
 - (3)事務局関係
 - ・ ROG の電子化：29 号の「電子図書館」および学会 HP で公開
 - ・ 賛助会員の勧誘・ROG の販売促進・シンポジウム協賛の勧誘
 - ・ 会計処理・会員管理
 - 4.1.2. 2014 年度会計報告

一般会計

大項目	小項目	2013年度	2014年度			
		決算	予算	中間見通し	決算	増減(対中間)
収入	賛助会費	200,000	200,000	210,000	200,000	-10,000
	個人会費	377,000	240,000	266,000	117,000	-149,000
	ROG販売	8,660	50,000	12,082	2,082	-10,000
	シンホ協賛金・剰余金	60,000	50,000	50,000	60,000	10,000
	利子ほか	316	100	60,414	67,456	7,042
	計	645,976	540,100	598,496	446,538	-151,958
	前年度繰越金	1,694,303	2,082,264	2,082,264	2,082,264	
	総計	2,340,279	2,622,364	2,680,760	2,528,802	-151,958
支出	ROG印刷費	159,600	300,000	584,800	284,800	-300,000
	送料	10,720	30,000	39,450	19,450	-20,000
	HPオンライン化維持費	27,615	28,000	27,780	28,404	624
	シンポジウム予備費	0	50,000	50,000	8,385	-41,615
	事務局経費	1,260	30,000	30,000	14,940	-15,060
	雑費	58,820	30,000	10,216	864	-9,352
	計	258,015	468,000	742,246	356,843	-385,403
	次年度繰越金	2,082,264	2,154,364	1,938,514	2,171,959	233,445
	総計	2,340,279	2,622,364	2,680,760	2,528,802	-151,958

田口基金へ2013年度に5万円貸出、2014.5.16返却

ROGの発行：2013年度分の1回、2014年度分の発行は翌年に繰越

前年度繰越金は2013年度決算により修正（次年度繰越金も運動）

田口基金

大項目	小項目	2013年度	2014年度			
		決算	予算	中間見通し	決算	増減(対中間)
収入	利子	22	20	22	10,553	10,531
	借入	50,000	0	0	0	0
前年度繰越金		1,684,543	1,684,565	1,684,565	1,684,565	
総計		1,734,565	1,684,585	1,684,587	1,695,118	10,531
支出	副賞(田口賞)	50,000	50,500	50,000	50,000	0
	返済			50,000	50,000	0
次年度繰越金		1,684,565	1,634,085	1,584,587	1,595,118	10,531
総計		1,734,565	1,684,585	1,684,587	1,695,118	10,531

一般会計より2013年度に5万円借用、2014.5.16返却
 定額貯金を解約し一部通常貯金に移し、残りを定額貯金で新規契約
 前年度繰越金は2013年度決算により修正(次年度繰越金も連動)

4.1.3. 2014 年度会計監査報告

会計監査報告

日本有機地球化学会一般会計および田口基金の
 2014 年度会計報告を、出納簿、請求書、郵便貯
 金および振替口座、その他提示された証明書類
 に基づいて審査した結果、それが正確に処理さ
 れていると認められましたので、ここに報告致
 します。

平成 27 年 7 月 14 日

監事 金子 信行 

4.2. 2015 年度事業・会計中間報告

以下の報告が事務局からあり、出席者の賛成多数により承認された。

4.2.1. 2015 年度実施事業：中間報告（2015 年 1 月 1 日～7 月 31 日）

(1)Publication 関係

- ・ ニュースレターNo.60（2015.1.7）、No.61（2015.6.3）発行

(2)Meeting 関係

- ・ 運営委員会 (email にて随時) :
- ・ 学術賞受賞候補者選考委員会 (2015.7; email にて)
- ・ 田口賞受賞候補者選考委員会 (2015.7; email にて)
- ・ ROG 編集委員会
- ・ 記念出版物編集委員会
- ・ 将来計画委員会
- ・ 共催：国際第四紀学連合 (INQUA) 第 19 回大会@名古屋 (2015.7.27～8.2)

(3)事務局関係

- ・ 賛助会員の勧誘・ROG の販売促進・シンポジウム協賛の勧誘
- ・ 会計処理・会員管理
- ・ 役員選挙 (2015.3; 選挙管理委員選出、4.15～6.15; 立候補・推薦受付、6.22～7.21 投票)

- ・ ROG 電子化 (30 号の「電子図書館」での公開、2015.7.15 J-STAGE 利用説明会)

4.2.2. 2015 年度実施事業：今後の計画 (2015 年 8 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)

(1)Publication 関係

- ・ ROG Vol. 31 No.1 & No.2 発行

(2)Meeting 関係

- ・ 運営委員会 (2015.8.5; 北海道大学低温科学研究所・交流ラウンジ、email にて随時)
- ・ 第 33 回有機地球化学シンポジウム(2015.8.6～8.7; 北海道大学低温科学研究・講堂)
- ・ 総会 (2015.8.6; 北海道大学低温科学研究所・講堂)
- ・ ROG 編集委員会
- ・ 記念出版物編集委員会
- ・ 将来計画委員会

(3)事務局関係

- ・ 会計処理・会員管理・ホームページの更新
- ・ ROG 電子化 (30 号の学会 HP での公開、「電子図書館」から J-STAGE への移行手続き)

4.2.3. 2015 年度会計中間報告 (2015 年 1 月 1 日～7 月 10 日) および見通し

一般会計

大項目	小項目	2015年度				増減	コメント
		当初予算	修正予算	上期実績	下期見通し		
収入	賛助会費	200,000	200,000	180,000	20,000	0	
	個人会費	180,000	176,000	104,000	72,000	-4,000	
	ROG販売	30,000	30,205	2,205	28,000	205	
	シホ協賛金・剰余金	60,000	60,000	30,000	30,000	0	
	利子ほか	100	486	243	243	386	
	計	470,100	466,691	316,448	150,243	-3,409	
前年度繰越金		2,082,264	2,082,264			0	
総計		2,552,364	2,548,955			-3,409	
支出	ROG印刷費	300,000	313,300	163,300	150,000	13,300	
	送料	30,000	39,724	19,724	20,000	9,724	
	HPオンライン化維持費	28,000	28,000	0	28,000	0	
	シホシユム予備費	50,000	50,000	0	50,000	0	
	事務局経費	30,000	30,000	0	30,000	0	
	雑費	30,000	0			-30,000	
	計	468,000	461,024	183,024	278,000	-6,976	
次年度繰越金		2,084,364	2,087,931			3,567	
総計		2,552,364	2,548,955			-3,409	

前年度繰越金は2014年度決算により修正(次年度繰越金も連動)

田口基金

大項目	小項目	2014年度				増減	コメント
		当初予算	修正予算	上期実績	下期見通し		
収入	利子	22	40	20	20	18	
前年度繰越金		1,595,118	1,595,118			0	
総計		1,595,140	1,595,158			18	
支出	副賞(田口賞)	50,000	50,000	0	50,000	0	
	借入金返済						
次年度繰越金		1,545,140	1,545,158			18	
総計		1,595,140	1,595,158			18	

前年度繰越金は2014年度決算により修正(次年度繰越金も連動)

4.3. 2016 年度事業・会計計画 (2016 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

以下の内容について事務局から説明があり、出席者の賛成多数により承認された。

4.3.1. 2016 年度事業計画

(1)Publication 関係

- ・ ニュースレターNo.62、No.63 発行
- ・ ROG Vol. 32 発行

(2)Meeting 関係

- ・ 第 34 回有機地球化学シンポジウム
- ・ 総会
- ・ 運営委員会
- ・ ROG 編集委員会、記念出版物編集委員会、将来計画委員会

(3)事務局関係

- ・ 賛助会員の勧誘・ROG の販売促進・シンポジウム協賛の勧誘
- ・ 会計処理・会員管理・ホームページの更新・ROG 電子化 (J-STAGE)

4.3.2. 2016 年度会計計画

一般会計

大項目	小項目	2014年度	2015年度	2016年度	コメント
		決算	修正予算	予算	
収入	賛助会費	210,000	200,000	200,000	
	個人会費	117,000	176,000	180,000	
	ROG販売	2,082	30,205	30,000	
	シンポジウム協賛金	50,000	60,000	60,000	6社6口
	利子	67,456	486	100	
	計	446,538	466,691	470,100	
前年度繰越金		2,082,264	2,171,959	2,177,626	
総計		2,528,802	2,638,650	2,647,726	
支出	ROG印刷費	284,800	313,300	300,000	30号70ページ想定
	送料	19,450	39,724	30,000	
	HPオンライン化維持費	28,404	28,000	28,000	
	シンポジウム予備費	8,385	50,000	50,000	
	事務局経費	14,940	30,000	30,000	
	雑費	864	0	30,000	
	計	356,843	461,024	468,000	
次年度繰越金		2,171,959	2,177,626	2,179,726	
総計		2,528,802	2,638,650	2,647,726	

田口基金

大項目	小項目	2014年度	2015年度	2016年度	コメント
		決算	修正予算	予算	
収入	利子	10,553	22	22	
前年度繰越金		1,684,565	1,595,118	1,545,140	
総計		1,695,118	1,595,140	1,545,162	
支出	副賞(田口賞)	50,000	50,000	50,000	
	返済	50,000	0	0	
次年度繰越金		1,595,118	1,545,140	1,495,162	
総計		1,695,118	1,595,140	1,545,162	

5. 議事内容 2 : 役員、会則

5.1. 選挙報告

2015 年度に実施した 2016-2017 年度役員選挙の結果について、選挙管理委員会（金子雅紀委員）から以下の報告があった。

選挙管理委員会：柏山 祐一郎（委員長）・山本 真也・金子 雅紀

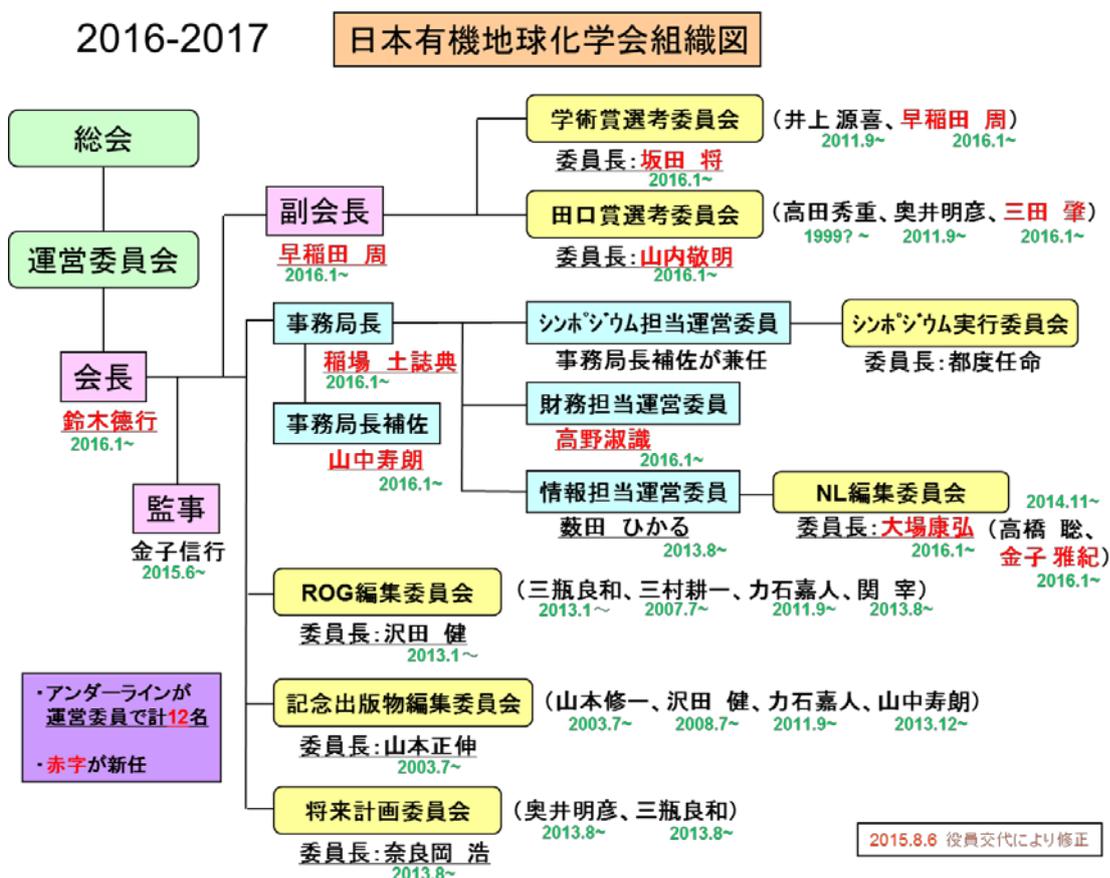
立候補・推薦受付：4 月 15 日～6 月 15 日

投票受付期間：6月22日～7月21日
 開票：7月下旬
 投票数：61票
 当選者：下記のとおり

会長	鈴木徳行	北海道大学
副会長	早稲田 周	石油資源開発株式会社
監事	金子信行	産業技術総合研究所
運営委員 (五十音順) :		
1)	稲場 土誌典	国際石油開発帝石株式会社
2)	大場康弘	北海道大学
3)	坂田 将	産業技術総合研究所
4)	沢田 健	北海道大学
5)	高野淑識	海洋研究開発機構
6)	奈良岡 浩	九州大学
7)	藪田 ひかる	大阪大学
8)	山内敬明	九州大学
9)	山中寿朗	岡山大学
10)	山本正伸	北海道大学

5.2. 2016-2017 役員

河村会長より、選挙で選ばれた役員およびその他の委員の役職について、以下の提案があり、出席者の賛成多数により承認された。



5.3. 口座移設のための会則改定の提案

事務局（三田財務担当運営委員）より、以下の提案があり、出席者の賛成多数により承認された。

- ・ 口座移設を可能にするための会則改定
 - 現状の会則では、任意団体としての要件を満たさず、ゆうちょ銀行などの口座開設など種々の手続きが困難になっている。
 - 以下の「人格なき社団としての規約要件」を満たす必要がある。
 - (1) 構成員の資格を明示すること。
 - (2) 会の所在地を明示すること。
 - (3) 設立日を明示すること。
 - 昨年度の会則改定で上記(1)には対応した。
今年度は、下記の条文を会則に追加し、上記(2)と(3)に対応したい。(3)については、本会の前身である談話会が実質的に設立された1972年（昭和47年）9月11日を設立日としたい。ただし、郵便局に既に登録してある日付は「日本有機地球化学会」となった平成14年8月2日となっており、この日付を変更することは困難である可能性がある。
 - ・ 改定案
 - 第14条 本会を次の所在地に置く。
福岡市東区和白東 3-30-1 福岡工業大学工学部生命環境科学科
 - 第15条 本会の設立日は前身の「有機地球化学談話会」が設立された昭和47年9月11日とする。（「日本有機地球化学会」としての設立日は平成14年8月2日である。）
(2015年8月6日 改定)
 - 第14条 本会を次の所在地に置く。
横須賀市夏島町 2-15 海洋研究開発機構
(2016年1月1日 改定)
- * 上記条文の細部は、ゆうちょ銀行との交渉で変更する可能性がある。

5.4. 選挙細則改定

事務局より、以下の提案があり、出席者の賛成多数により承認された。

- 役員選挙の実施結果を踏まえ、下記の条文を会則に追加したい。
- 改定案
- 第1条
 - (2) 正会員による無記名投票とする。新入会員は、公示日時点で運営委員会による入会承認を受けている必要がある。
- 第4条
 - (4) 候補者が定数を超えない場合は、候補者全員を無投票当選とする。

5.5. 「運営委員」の名称についての問題提起

前日（8月5日）の運営委員会で以下の問題提起があったが、結論が出ず継続審議となったことが事務局より報告された。

- 国内には非常に多くの学術団体が存在し、その会務を掌る委員会等は、理事会、評議員会、幹事会、運営委員会など様々な呼称が用いられている。
- その中で、「運営委員」を使用している学会は少ない。他の学会での理事や評議員と並列すると、「運営委員」は格が低い印象を受ける。
- 「理事」等へ名称変更してはどうか？

6. 議事内容 3：各委員会活動報告

6.1. 学術賞選考委員会

鈴木德行委員長より、選考の結果 2015 年度は学術賞の受賞者がなかった、との報告があった。

6.2. 田口賞選考委員会

坂田委員長より、以下の田口賞選考結果の報告があった。

受賞者：中村 英人 会員

所属・職名：北海道大学大学院理学研究院 (JST CREST) 博士研究員

研究題目：陸上植物および微細藻類のバイオマーカーによる化学分類、古環境復元の研究

研究業績：査読付き原著論文 11 編

査読無し報告書等 4 編

国際学会における発表 (27 件)

国内学会における発表 (38 件)

6.3. ROG 編集委員会

沢田委員長より、以下の報告があった。

6.3.1. Researches in Organic Geochemistry Volume 31 (31 巻) 編集状況

- Vol.31, No.1 を 2015 年 8 月に刊行予定。
- 論文：論文 1、受賞総説 1、短報 1、技術論文 1。すべて受理され、ゲラ作成。
- Vol.31, No.1 は 2015 年 12 月までは、PDF ファイルを Web 公開するのみ。
- 高浜印刷から→ 本冊子と別刷りを一緒に印刷した方が安い。したがって、著者らへの Vol.31, No.1 の論文別刷りは、No.2 が完成した後 (つまり、本冊子を印刷するとき) に作成・発送する。
- Vol.31, No.2 は 2015 年 12 月に刊行予定。

6.3.2. ROG の表紙

- ROG の表紙：Vol.30 から ROG の表紙デザインを毎年変更する方式を採用する (ROG Vol.30 記念企画)。その年の ROG に受理された論文のうちから、(日本の) 有機地球化学研究に関連した象徴的な図・イラスト (化合物の構造式、有機地球化学試料、クロマトグラムなどの生データ、最新分析機器の写真など) を ROG 編集委員会で選択して、場合によってはイラスト的に体裁を作り替えて、表紙デザインにする。タイトルのフォント・字体と外枠のレイアウト・デザインは、Vol.30 発刊時に ROG 編集委員会、運営委員会で検討し決定した。これは継続して使用する。
- ROG Vol.31 の表紙も、同様に行う予定である。

6.3.3. ROG Vol.30 企画「有機地球化学のこれまでの歩みと現在、そして未来」

- 日本有機地球化学会の創成期・初期にご活躍された世代の方々のご協力を得て、各々の有機地球化学の専門領域のこれまでの歩みと、現在・将来において重視すべき研究テーマ、そして未来のために残したいことをまとめた論文・総説を毎巻 1 報掲載する。
- 執筆者は ROG 編集委員会で決めて、執筆依頼する。または、ご本人が執筆をご希望され投稿された場合には受け付ける。この企画の投稿論文・総説もすべて査読プロセスを入れる。

6.3.4. 査読者の公表について

- 以下の提案を前日の運営委員会に諮ったが、結論が出ず、継続審議となった。
- ROG の論文を査読された方に対して学会としての謝意をこめて、ROG の巻末に公表する。ファーストネーム頭文字のみ、苗字の英文表記の公表を考えている。また、3 年 (3 巻) ごとに公表する。

6.4. 記念出版物編集委員会

山本委員長より、以下の報告があった。

- 第一部：7 項目の原稿については既に本会 HP 上で公表されている。残りの項目についても原稿作成、査読作業等が順調に進行中である。

- ・ 第二部・第三部・第四部：ROG 技術論文の記述を土台に詳細な書式のひな形を作成中。
- ・ 数年後の全項目出版を目指す。

7. 議事内容 4：その他

以下の各種報告が事務局よりなされた。

7.1. 来年度のシンポジウム開催場所

- ・ 4年ほど前から開催を打診し開催希望の回答を得ていた大阪大学に来年度の開催をお願いすることにしたい（代表世話人：藪田ひかる運営委員）。
- ・ なお、本シンポジウムは、2016年6月26日～7月1日に開催予定のゴールドシュミット横浜会議の後に開催し、国際会議として実施する予定である。
- ・ 藪田世話人より、2016年7月4日～6日に大阪府箕面の箕面観光ホテルで開催する計画の概要が示された。
- ・ 質疑・コメント
- 大変良い特別な企画なので、繰越金が減っても本会会計から、かなりの額を支出しても良いのでは？
→ 資金については外部の助成金にいくつか応募する予定だが、採択されなかった場合は、本会会計から30～40万円程度の資金を出すことは可能と考えている。
- 実際に国内、海外からどれくらいの参加者がいるのか、前もって良く調べた方が良い。

- * 総会翌日のシンポジウム2日目（8月7日）の昼休みに、開催組織委員と来年度役員の一部により、来年度シンポジウムの開催計画についての会議がもたれた。討議の結果、ゴールドシュミット会議のポストコンファレンスとしての独立した国際会議を1.5日程度開催し、続けて毎年開催している通常の有機地球化学シンポジウムを1日程度開催する方向で準備することとなった。

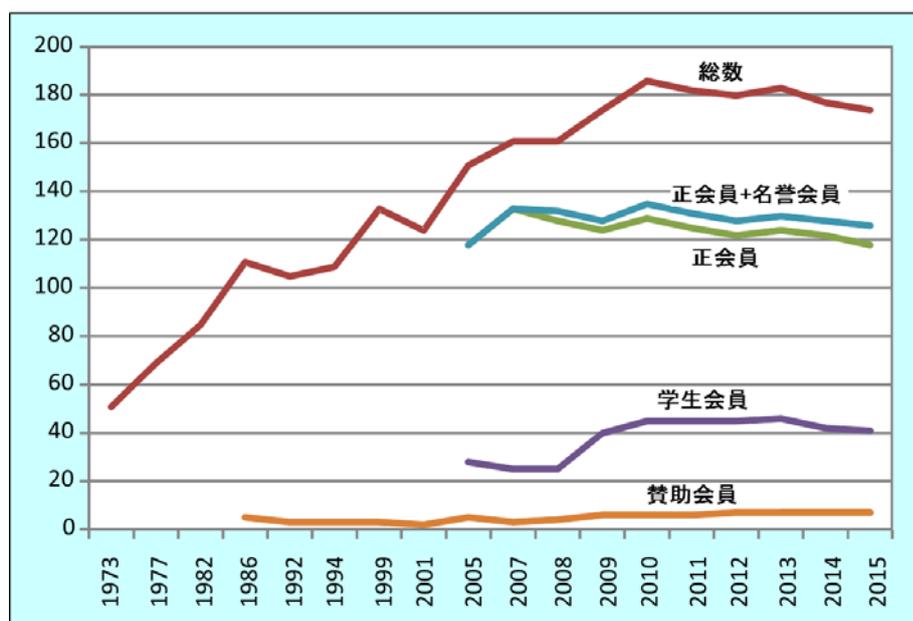
7.2. 会員の状況（2015年8月5日時点）

（敬称略）

- ・ 入会：5名
- 正会員：酒井 正治（1名）
- 学生会員：前山 大地、青柳 治叡、數川 恵輔、氏家 雅貴（4名）
- ・ 退会：3名
- 正会員：水谷 宏、西村 弥亜
- 学生会員：三枝樹 慧
- ・ 物故：1名
- 正会員：平井 明夫
- ・ 除籍：5名
- 正会員：杉本 義一、永洞 真一郎（2名）
- 学生会員：平林 佐斗志、浅野 純也、栄田 直樹（3名）
- ・ カテゴリー変更：5名
- 正会員→名誉会員：福島 和夫、田上 英一郎（2名）
- 学生会員→正会員：高橋 幸士、中村 英人、佐藤 光（3名）
- ・ 現況：174名（2014年度178名）

正会員：	119名（2014年度122名）
1. 学生会員：	40名（2014年度43名）
2. 名誉会員：	8名（2014年度6名）
3. 賛助会員：	7社（2014年度7社）

会員数の推移



7.3. ROG 電子化：「電子図書館」から「J-STAGE」への移行

- ・ 現在 ROG は国立情報学研究所 (NII) が運営する「電子図書館 (ELS)」に掲載しているが、NII は平成 28 年 3 月 31 日に電子化の受付を終了し、平成 29 年 3 月にはサービスを終了することを決めている。
- ・ NII-ELS 掲載誌は J-STAGE への移行を促されており、ROG も J-STAGE に移行する必要がある。
- ・ ROG は最新 30 巻まで ELS に既に掲載されているので、31 巻から J-STAGE に移行したい。

<問題点、必要事項>

- ・ ELS では書誌情報・引用文献のデータ作成作業をすべて ELS 側が無償で行っており、本会側は冊子と PDF を送るだけでよかった。しかし、J-STAGE ではこれらのデータをすべて学会側が作成する必要がある。これまで必須だった XML 登録に加えて Web 掲載が出来るようになるものの、実際にどれくらいの手間 (費用?) が必要か現時点では不明である。→2015 年 11 月以降毎月予定されている利用説明会に出て調査する予定。
- ・ バックナンバーについては ELS から J-STAGE にデータが引き渡されるが、エラーがないか本会側で確認が必要。

7.4. 学会共催

昨年に引き続き地質学会の堆積部会所属の下記 4 セッションを本会が共催する。

日本地質学会 堆積部会所属 4 セッション (2015 年 9/11-13@信州大学長野キャンパス)

- ・ 石油・石炭地質と有機地球化学
- ・ 堆積物 (岩) の起源・組織・組成
- ・ 炭酸塩岩の起源と地球環境
- ・ 堆積過程・堆積環境・堆積地質

共催により、本学会会員は、これらのセッションで発表が可能となり、参加登録費が地質学会会員と同額となる。共催以外のセッションへ参加することもできる。

以上

年会費納入のお願い

会員の皆様には日頃よりご支援いただき、誠にありがとうございます。本学会は、1月より新しい会計年度になっております。新年度の会費の納入をよろしくお願い致します。また、本年度までの年会費を納入いただけていない方は、併せて納入いただけますようお願い致します。

年会費： 正会員 2,000 円

学生会員 1,000 円

振込み先： 郵便振替口座 00110-7-76406

（名義人：日本有機地球化学会）

最終納入年度の分からない方、銀行口座よりの送金をご希望の方、所属機関より納入されるなど会員登録名以外でお振込みの方は、事務局財務担当の高野 (takano@jamstec. go. jp)

までお知らせください。

※学生会員の方へ

これまで学生会員の方で、卒業・修了された時は、事務局までお知らせください。本会の会計年度は1月より始まりますので、この3月末に卒業・修了される方は、学生会員の年会費で結構です。次年度より正会員の年会費の納入をお願いします。なお、卒業・修了後の連絡先を事務局まで忘れずに届けてください。

※異動・転居された方へ

職場や自宅が変わられた方は、会員管理と会誌郵送のために、新しい住所、電話番号、E-mail アドレス 等を事務局までご連絡下さい。

Announcement

有機地球化学賞（学術賞）2016年度受賞候補者推薦の募集

有機地球化学賞（学術賞）2016年度受賞候補選考委員会

委員長 坂田 将

有機地球化学賞（学術賞）受賞者選考規則により、選考候補者の推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦ください。

記

候補者の資格：有機地球化学の研究分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

募集の方法：本会会員の推薦による（自薦他薦を問いません）。

推薦の方法：下記の事項を A4 サイズの用紙に任意の様式で記入し、書留で郵送すること。（同内容のものを電子メールでも提出してください）

- 1) 候補者の履歴（大学卒業以降の学歴、職歴、その他）
- 2) 推薦の対象となる研究題目および推薦理由
- 3) 研究業績目録（推薦の対象となる主要な論文 10 編）
- 4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日：2016年5月31日（火）（当日消印有効）

提出および問い合わせ先：〒305-8567 つくば市東 1-1-1 中央第7
産業技術総合研究所 地質調査総合センター
地圏資源環境研究部門

坂田 将

電話 029-861-3898：ファックス 029-861-3666

E-mail : su-sakata@aist.go.jp

これまでの受賞者と研究題目については <http://www.ogeochem.jp/archives.html>
（日本有機地球化学会HP「学会アーカイブス」）をご覧ください。

研究奨励賞（田口賞）2016年度受賞候補者の募集

研究奨励賞（田口賞）2016年度受賞候補選考委員会

委員長 山内敬明

研究奨励賞（田口賞）受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては下記をご参照のうえ、受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格：生年月日が1982年4月2日以降であり、有機地球化学、石油地質学、堆積学の3分野のいずれかで優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。

募集の方法：本会会員の推薦による（自薦他薦を問いません）。**推薦の方法**：A4サイズ用の紙に下記事項を任意の形式で記述し、郵送するか、PDFファイルとしてE-mailに添付してお送り下さい。

- 1) 推薦理由及び研究題目
- 2) 研究業績目録
- 3) 研究論文の別刷りまたはコピー
- 4) 履歴書
- 5) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日：2016年5月31日（火）（当日消印有効）

提出及び問い合わせ先：〒819-0395 福岡市西区元岡744

九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門 山内敬明

電話：092-802-4217 ファックス（電話に同じ）：092-802-4217

E-mail：yamauchi.noriaki.439@m.kyushu-u.ac.jp

これまでの受賞者と研究題目については
<http://www.ogeochem.jp/archives.html>（日本有機地球化学会 HP「学会アーカイブス」）をご覧ください。

ROG 31 巻 1 号が WEB 公開中 ROG 32 巻へ論文を投稿しましょう！

Researches in Organic Geochemistry

編集委員長 沢田 健

ROG (Researches in Organic Geochemistry)は本学会の学会誌であり、有機地球化学およびそれに関連する分野の研究論文を掲載し、冊子を発行しております。ROG 31 巻(Vol. 31)から年間複数号を発刊します。すでに今年 9 月に ROG Vol.31, No.1 が発行され、総説 1 編、論文 1 編、短報 1 編、技術論文 1 編の計 4 編が WEB 公開されています。ROG Vol.31, No.2 は、2015 年 12 月 30 日発行で、2016 年 1 月に WEB 公開される予定です。また、ROG Vol.31, Nos.1-2 の冊子を 2016 年 2 月初め頃に本学会会員の皆様の下に郵送にてお届けできると思います。また、表紙デザインは、Vol.30 同様に、掲載される論文のうちから象徴的な図を ROG 編集委員会で選択して印刷します。楽しみにお待ちしております。ROG Vol. 32 への論文投稿もすでに受け付け体制にあります。ご遠慮せずに積極的に論文原稿の投稿をお願いします。ROG Vol.32, No. 1 は 2016 年 5 月頃、No. 2 以降は 2015 年 9 月以降に WEB 公開する予定で進めております。冊子体はこれまでと同様に 12 月頃の発行を予定しております。皆様からの積極的な論文投稿をお待ちしています。

ROG の論文のカテゴリーはこれまで通り、1) 論文(article)、2) 短報(short article)、3) 技術論文(technical paper)、4) 総説(review)です。有機地球化学会シンポジウムで発表された内容や、博士論文・修士論文成果の発表なども歓迎いたします。詳細は、ROG Vol.31 の巻末の投稿規定をご参照ください。また、上記の枠に入らない論文や企画でも、有機地球化学の発展に貢献し、学会員にとって有意義な論文・企画であれば、随時、編集委員会で検討を進めます。積極的に編集委員会にお問い合わせ下さい。その他、いろいろなご意見、ご要望、ご感想をお寄せください。ご投稿・ご連絡は下記までお願いいたします。

PDF 添付ファイルによる電子投稿：
sawadak@mail.sci.hokudai.ac.jp

郵送：〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学大学院・理学研究院

自然史科学部門・地球惑星システム科学分野
沢田 健 編集委員長宛

(TEL: 011-706-2733, FAX: 011-746-0394)

編集後記：

ニュースレター編集委員長としての第一号が無事に発刊されて安心しております。今後も皆様からのご寄稿・ご協力をよろしくお願いいたします。(大)

今回は編集作業を担当させて頂きました。(高)

本年度から担当させて頂きます、どうかよろしくお願いたします (金)

発行責任者 日本有機地球化学会会長 鈴木 德行
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院 理学院 自然史科学専攻 地球惑星システム科学講座
Phone&Fax: 011-706-2730

日本有機地球化学会事務局
〒107-6332 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー
国際石油開発帝石株式会社 技術本部 評価技術ユニット内
事務局長 稲場 土誌典
Phone: 03-5572-0263, Fax: 03-5572-0269
e-mail: office@ogeochem.jp
ゆうちょ銀行口座 00110-7-76406 (名義人 日本有機地球化学会)

編集者 大場 康弘 (北海道大学低温科学研究所) 金子雅紀 (産業技術総合研究所) 高橋 聡 (東京大学大学院理学研究科)
e-mail: news@ogeochem.jp

有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。

アドレス：<http://www.ogeochem.jp/>